

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 4 月 1 日現在

機関番号:15401

研究種目:基盤研究(C)

研究期間:2009-2011

課題番号:21530881

研究課題名(和文)グローバル社会におけるパラダイムシフト:日本の高等教育と
キャリアにおける意識変容研究課題名(英文)“Paradigm Shift in the Global Society: Transformation of Consciousness
through Higher Education and Career in Japan”

研究代表者

恒松 直美 (NAOMI TSUNEMATSU)

広島大学・国際センター・准教授

研究者番号:60363008

研究成果の概要(和文):

交換留学生・日本人学生・社会人を調査対象とし約170名の深い質的調査を行った。高等教育とキャリアにおける意識変容について、人の意識に焦点をあて個々の実体験を重要視して考察した。日本の大学教育による交換留学生と日本人学生への影響と社会人のキャリアを通じての意識変容について分析し、今後の大学教育への新しい知見を得た。交換留学生は日本の大学への留学がもたらした世界各国からの留学生や大学での出会いを通じて自らのアイデンティティを問い直し、世界観や日本社会への意識を変容している現実、留学生を含む大学生は、大学時代の多様な人々やロールモデルとの出会い、留学体験、社会体験等により、自己と世界との関わりを捉え直し意識が変容するケースが多いことについて示唆が得られた。大多数の学生が学術知と実践知との乖離の現実の中で自己実現の道を模索している姿も明らかとなった。社会人は、仕事を通じた人との関わりやメンターとなる存在からの示唆などを通じ、自分の仕事の価値づけを再考し、自らの人生について意識を変容させるケースが多かった。大学生と社会人の意識変容をホリスティックに捉えた研究成果に基づき、大学の国際教育と社会の相互支援を目指す授業の準備を進めた。

研究成果の概要(英文):

This research aims at examining the conscious transformation of international exchange students and Japanese students through university education, and people who have career. This research is based upon the interview with 170 people, and I focused on the actual experiences of the people and their own expressions describing their lives. This research has revealed that international exchange students have re-examined their identity and their worldview through their study abroad experience. Further, it has revealed that encounter with various kinds of people including a role model, study abroad experience, and various social experiences could significantly affect the way university students relate themselves to the world and their development of self-awareness. Most of the students are seeking their self-realization facing the discrepancy between the academic knowledge and practical knowledge. People with career tend to transform their consciousness on the meaning of their work and life through the encounter with people who played the role of a mentor. This research has brought new perspectives on the development of the course which connects students and people in the society. Based upon the result of the research which holistically grasped the consciousness transformation of students and people with career, I have prepared for a new course in which international education in the university and the society could mutually support each other.

交付決定額

(金額単位:円)

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	600,000	180,000	780,000
2010年度	300,000	90,000	390,000
2011年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野:社会科学

科研費の分科・細目:教育学・教育社会学

キーワード:国際教育、ジェンダー、スピリチュアリティ

1. 研究開始当初の背景

現在、日本の大学は、国際競争にさらされる中、競争に勝つことを主眼とした経営戦略をもとに大学におけるグローバル人材育成や大学国際化の研究が論じられる傾向にある。現状況下、教育をうける側の視点から大学教育について見つめ直し、日本人学生と留学生が実際に日本の高等教育を通じて何を得たのか、それがその後の人生にどう影響したのか、その成果を調査する意義は大きい。1990年代の日本経済の構造的崩壊に伴い職業世界における大人社会の権威が失墜し、体制下された大人社会の安定が崩れる中、実社会で多様な体験を積んで来た人々の意識変容から学ぶ点は大きいと考え、大学教育とキャリアを連携させて分析するため大学生と社会人を対象とした意識変容の研究を行うこととした。

本研究では、国際社会における人材育成や経済的効果に重点をおいた大学改革という視点からシフトし、それらの政策の中で大学教育を受けてきた学生の心・意識・スピリチュアリティについて全人的(holistic)な人間観から分析し、個々の人生における意味の探求や意識変容について調査することにより、大学教育の意味と新しい方向性を探ることとした。意識変容が起こる過程についての分析では、ジェンダーや多様な要因による影響など意識のシフトがどう起こりその後の人生に影響を与えたのかを探り、大学教育との関わりにおいて意識変容を多面的に捉えることとした。

2. 研究の目的

高等教育を受けた日本人学生・留学生及び社会で活躍する人々の意識変容について明らかにし、グローバル社会における日本の大

学の文化形成と学生への支援体制の構築の新しい方向性について考察することを目的とした。本研究では、日本の高等教育を受ける側の視野に立ち、留学生・日本人学生・社会人の実体験に目を向け、「意識変容」「大学と人生」「生きる意味の探求」をテーマに大学教育の意味と今後の支援策を探った。個々の人々が自身の人生に与えた意義付けに着目し、それに基づき、学生（留学生を含む）及び社会が求める大学のあり方について国際的視野から再検討し、大学教育の実践に生かしていくことを目標とした。

3. 研究の方法

主として詳細な質的調査を行った。インタビュー、参与観察、ライフヒストリー法、ナラティブ分析等の方法論を用い、内面的及び主体的人生や直接的な感覚に着目しつつ、個々の意識変容のケースについて深く掘り下げる方法を用いた。

4. 研究成果

交換留学生・日本人学生・社会人を調査対象とし約170名の深い質的調査を行った。高等教育とキャリアにおける意識変容について、人の視点に焦点をあて個々の実体験を深く掘り下げて考察できた。生きた人の特定の声に基づき、各個人の出来事への意味づけを重要視した。日本の大学教育による交換留学生と日本人学生への影響と社会人のキャリアによる意識変容について分析し、今後の大学教育の発展について新しい知見を得た。

交換留学生は日本留学を通じ世界各国の留学生との出会いにより自らのアイデンティティを問い直し、異文化との接触により世界観を変容させている現実、社会における自己の位置づけについての意識変容、日本社会

についての見解の変容、日本人学生・留学生とも大学における多様な人々やロール・モデルとの出会い、留学体験、多様な社会体験などが意識の変容に影響していることの示唆が得られた。大多数の学生が学術知と実践知との乖離の現実を目の当たりにし、自己実現の道を探索していることも明らかとなった。キャリアを持つ人は、仕事の価値づけを求める過程でメンターとなる人との出会いが意識を変容させるケースが多かった。研究成果を生かし、留学生・日本人学生・多様な背景を持つ学生・社会人が大学の国際教育に共に関わり、相互支援をもたらす授業を構築する準備を進めた。大学の国際教育と社会の連携により、グローバル社会における自己実現に示唆を与えられる支援体制を目指す新しい授業を構築した。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 9 件)

- ① 恒松直美「短期交換留学生向けインターンシップ授業 – 企業体験者の講話の導入と留学生の意識 –」, 『日本総合学会』, 査読有, Vol.11, 2012, 印刷中
- ② 恒松直美「大学教育と社会の相互支援を目指した短期交換留学生インターンシップ – 『グローバル化支援インターンシップ』パイロット・スタディ –」, 『広島大学国際センター紀要』, 査読無, Vol.2, 2012, pp.1-15.
- ③ 恒松直美「省察的実践と『グローバル化支援インターンシップ』 – フェミニズム理論とエンパワーメントのパラダイム –」『広島大学留学生教育』, 査読無, Vol.16, 2012, 印刷中.

- ④ 恒松直美「広島大学短期交換留学生インターンシップと地域企業の国際貢献 – 交換留学生インターン受け入れに関する地域企業の意識調査 –」, 『広島大学国際センター紀要』, 査読無, Vol.1, 2011, pp.51-65.
- ⑤ 恒松直美「短期交換留学生向けインターンシップ授業における企業体験者講話とPBL (課題発見解決型学習)」, 『広島大学留学生教育』, 査読無, Vol.15, 2011, pp.47-61.
- ⑥ 恒松直美「短期交換留学生向けインターンシップと日本人学生の参加 – 国際的視野からのキャリア教育 –」『広島大学留学生センター紀要』, 査読無, Vol.20, 2010, pp.23-39.
- ⑦ 恒松直美「グローバル・シフトと大学教育のパラダイム – 学生と教職員で作るスピリチュアルキャピタル –」, 『広島大学留学生教育』, 査読無, Vol.14, 2010, pp.45-58.
- ⑧ 恒松直美「グローバル社会におけるパラダイム・シフト – 大学教育経験者の意識変容についての研究法の考察 –」『広島大学留学生センター紀要』, 査読無, Vol.19, 2009, pp. 11-27.
- ⑨ 恒松直美”Connecting Students Transcending Gender and Culture: Paradigm Shift in the Internationalization of a University in Japan”, 『広島大学留学生教育』, 査読無, Vol.13, 2009, pp. 13-28.

[学会発表] (計 10 件)

- ① 恒松直美「交換留学生インターンシップ授業における国際教育と社会の相互支援体制の構築の課題」, 京都大学 G30 国際教育指導研究シンポジウム, 2011年12月7日, 京都大学
- ② 恒松直美「社会人の意識変容: 留学生インタ

ーンシップにおける国際教育と社会の相互支援」, 留学生教育学会・短期留学特別プログラム分科会第6回会合, 2011年10月28日, 京都大学 (東京オフィス)

- ③ 恒松直美 "Consciousness Transformation of Students through University Education in Japan: From Local and Global Perspective", 日本教育学会 (第70回), 2011年8月26日, 千葉大学
- ④ 恒松直美 「短期交換留学生の日本留学による意識変容」, 留学生教育学会 (第16回研究大会), 2011年8月20日, 名古屋大学
- ⑤ 恒松直美 「インターンシップと短期交換留学生の意識変容 - 企業体験者講話の導入-」, 日本高等教育学会, 2011年5月28日, 名城大学
- ⑥ 恒松直美 「短期交換留学生向けインターンシップコースにおける企業体験者の講話とPBL (課題発見解決型学習): 学生の自主的な学び」, 留学生教育学会, 2011年3月4日, 名古屋大学
- ⑦ 恒松直美 「広島大学短期交換留学プログラム (HUSA) インターンシップ受講生のキャリア」, 留学生教育学会, 2010年10月29日, 京都大学 (東京オフィス)
- ⑧ 恒松直美 "Influence of the Participation in the International Exchange Program in Japan: Paradigm Shift in the Internationalization of a University", 日本教育学会, 2010年8月22日, 広島大学
- ⑨ 恒松直美 「短期交換留学生インターンシップと大学の国際化」, 日本比較教育学会, 2010年6月27日, 神戸大学
- ⑩ 恒松直美 「広島大学短期交換留学プログラム (HUSA) インターンシップの新しい展開」, 留学生教育学会, 2010年3月30日, 大阪大学

[図書] (計0件)

[その他]

ホームページ等

<http://home.hiroshima-u.ac.jp/ntsunema>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

恒松直美 (TSUNEMATSU NAOMI)

広島大学・国際センター・准教授

研究者番号: 60363008

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: